

第7回 自転車空間研究小委員会

日時：平成22年6月5日（土）19:00～

場所：名古屋工業大学 第①会議室 [2号館3F]

（社）土木学会 土木計画学研究委員会 自転車空間研究小委員会

第7回 自転車空間研究小委員会

■議事

- (1) 委員長挨拶 3分 (19:00-)
山中英生先生 (徳島大学) : 小委員会の経過等 資料-1 (2-4 頁)
- (2) 委員の活動状況について 10分 (19:03-) 資料-2 (5-11 頁)
金利昭先生 (茨城大学)
- (3) 活動報告 2分 (19:13-)
 - ・新委員のご紹介 資料-3 (12 頁)
 - ・主な活動報告 小委員会資料-4 (13-14 頁)、「新道路技術会議検討会」資料-5 (15-16 頁)
- (4) 話題提供 40分 (19:15-)
 - ・分離フェンス・標示ポールの開発経緯 (井上仁様 (株)積水樹脂デザインセンター)
 - ・市民・自転車フォーラムの活動 (後藤様 特定非営利活動法人市民・自転車フォーラム 副理事長)
 - ・金沢における交差点部の自転車走行方法について (三国成子様 地球の友・金沢)
 - ・新潟市自転車利用環境計画について (松原淳様 (株)オリエンタルコンサルタンツ、金先生)
- (5) 今後のスケジュール 5分 (19:55-)
 - ・その他

■資料目次

資料-1	自転車空間研究小委員会の活動経緯	2
資料-2	委員の研究キーワード、関与事例、研究成果の発表・報告・講演等	5
資料-3	自転車空間研究小委員会名簿	12
資料-4	第6回委員会議事録(案)	13
資料-5	「中速グリーンモード」第二年度研究概要	15

自転車空間研究小委員会の活動経緯

■自転車空間研究準備委員会の設置

H18年度（2006）第1回土木計画学研究委員会にて準備委員会設置が承認される。

■準備委員会活動

メンバー：山中英生（徳島大）、屋井鉄雄（東工大）、兵藤哲朗（海洋大）、金利昭（茨城大）、浜岡秀勝（秋田大）、羽藤英二（東京大）、小川圭一（立命大）、大脇鉄也（国総研）、森若峰在（国土交通省）

- ・第1回 2007年6月9日（土）16:20-17:50 九州大学 計画学研究発表会 会議室
- ・第2回 2007年7月23日（月）20:30-21:00 国土技術研究センター
- ・第3回 2007年7月30日（月）20:30-21:00 国土技術研究センター
- ・第4回 2007年9月21日（金）20:00-21:00 虎ノ門パストラル

■自転車空間研究小委員会の設置

H19年度（2007）第2回土木計画学研究委員会にて委員会設置が承認される。

□活動期間

平成20年春大会～平成23年春大会

□委員会の活動趣旨

近年の環境問題を背景とした自転車の利用促進、増加傾向にある自転車関連事故、近年の道路交通法の改正など、自転車の利用空間への関心の高まりを契機として、新たな施策展開に向けた取り組みが進められている。しかしながら、自転車やその利用空間に関わる研究については、我が国では大きく遅れている現状にあり、これまで蓄積されてきた研究成果に加えて、空間設計や交通誘導のための基礎的な行動・挙動特性、多様な施策に対する利用者特性など、新たな施策展開に関連した科学的知見の体系化が急務となっている。そこで、こうした自転車空間に関する研究成果を共有し、知見を整理することで、実践的・実務的な成果につながる「自転車の利用空間のあり方」を工学的立場から提言することを目的として、研究小委員会を設立する。

□組織概要

平成19年秋大会に当研究小委員会の設置が認められ、その後平成20年1月に委員の公募を行った結果、大学、研究機関、NPO、コンサルタント分野から計32名の委員構成となっている。当面は委員会会合を通じた情報共有を中心に活動を進める。具体的テーマ別の分科会等の活動開始は平成20年秋大会以降の予定である。委員会の基本的な役割は、関連する研究の科学的知見の体系化を踏むための各委員や国内外から収集された新たな施策などの関連情報を共有することから、小委員会のホームページを開設し小委員会の活動を支援する。

平成19年秋大会に当研究小委員会の設置が認められ、その後平成20年1月に委員の公募を行い、大学、研究機関、NPO、コンサルタント分野の計32名のメンバー構成となった。さらに、現在国によって進められているモデル事業の評価等の情報収集・共有を図り、関連研究分野との連

携を深めるために、平成 21 年 3 月に 13 名の委員を追加公募し計 45 名の構成となった。本委員会の基本的な役割は、自転車関連研究の科学的知見の体系化を踏ることを念頭に、当面は各委員や国内外から収集された新たな施策などの関連情報の共有および発信にある。そこで、各委員が関与する国内外の事例や研究内容を紹介するセミナーの企画・開催を行うとともに、情報を蓄積・共有するために委員会 HP の充実を図る。

■活動報告

OH19 年秋大会（八戸工業大学）～H20 春大会

- －第 1 回委員会開催（11/25、場所：八戸工業大学、22 名参加）：4 名の委員から話題提供があり、今後の研究の進め方や研究課題について議論した
- －委員の公募（H19 年 12 月末）：新たに 17 名が加わり 32 名の構成となった
- －第 2 回委員会開催（5/13、20/32 名出席、場所：共立女子大学）：構成メンバーの紹介と活動方針・体制に関する討議を行った。
- －講演会開催（5/13、会場：共立女子大学 B101 教室、参加者 105 名）講演タイトル：「ドイツ環境共生都市フライブルクのまちづくりと自転車を利用した複合型サービス」、講演者：マルティン＝マティアス・リュプケ氏（フライブルク市）、村上敦氏

OH20 春大会（北海道大学）～H20 秋大会

- －平成 20 年春大会（6/6）：企画セッション「自転車空間整備とその評価」、「自転車交通の特性と評価」、「自転車空間、自転車交行動」(発表 12 件)、スペシャルセッション「自転車利用空間の目標像」の開催。
- －第 3 回委員会開催（6/7、場所：放送大学北海道学習センター6F 中講義室、20 名参加）、企画・スペシャルセッションでの論点整理、今後の方向性について討議。
- －国際セミナー開催（7/11 場所：土木学会講堂、140 名参加）、講演タイトル：「自転車とまちづくりセミナー～オランダと米国から市民による自転車まちづくり～」、講演者：パスカル・バンデン・ノールト氏（自転車奨励協会）/スティーブ・ジョンソン氏（ポートランド州立大学）

OH20 秋大会（和歌山大学）～H21 春大会（徳島大学）

- －第 4 回委員会開催（11/1、和歌山大学 E301、24 名出席）：国内外の先進事例紹介、自転車空間の検討課題の整理、討議
- －講演会開催（1/30、共立女子大学講堂、70 名程度）講演タイトル：「リヨン（仏）の環境まちづくり：都市交通政策とヴェローヴ」、講演者：KeroumSLIMANI（大リヨン道路網課自転車交通政策担当）
- －ワンディセミナー開催（3/6、野口英世会館、108 名参加）、タイトル：「自転車から中速グリーンモードへー利用空間整備の方向とその評価ー」、16 名から研究成果報告
- －委員の追加公募（H21 年 3 月）：新たに 13 名が加わり 45 名となった。
- －国際セミナー開催（4/26、土木学会講堂、98 名参加）、タイトル：「自転車とまちづくりセミナー～韓国で進む自転車まちづくり～」、講演者：金鍾錫、黄虎淳

OH21 春大会（徳島大学）～H21 秋大会（金沢大学）

- －第5回委員会開催（6/13、徳島大学共通講義棟 6 F 大会議室、44 名出席）：国内の自転車政策の動向や事例地区の進捗・整備状況報告、討議
- －講演会開催（8/27、オリコン会議室、65 名）講演タイトル：「自転車道はこう設計され、造られた」、講演者：徳本行信氏（(株)アーバンエース・理事）、泉堅二郎氏（日本デジタル道路地図協会・理事長）
- －講習会開催（10/27、岡山コンベンションセンター、100 名）「中四国から今後の自転車利用環境を考える」、基調講演、事例紹介（岡山、高松、福山）、パネルディスカッション

OH21 秋大会（金沢大学）～H22 春大会（名古屋工業大学）

- －第6回委員会開催（11/22、金沢大学 205 教室、39 名出席）：国内の自転車空間整備事例報告、討議
- －平成21年度新道路技術会議「自転車等の中速グリーンモードに配慮した道路空間構成技術に関する研究」第2回研究検討会「自転車等を考慮した交差点に関わる課題について」開催（1/23、(株)オリエンタルコンサルタンツ会議室）、発表者：本田（国総研）、三国成（地球の友金沢）、元田（岩手県立大学）、吉田（大阪市立大学）
- －平成21年度新道路技術会議「自転車等の中速グリーンモードに配慮した道路空間構成技術に関する研究」第3回研究検討会「道路空間構成の選択とネットワーク構成」開催（2/11、(株)オリエンタルコンサルタンツ会議室）、発表者：金（茨城大学）、山中（徳島大学）、浜岡（秋田大学）、宇佐美（岩手県立大学）、鈴木（運輸政策研究所）

■今後の予定

- －第7回委員会を春大会時（6/6）に開催確定
- －企画セッション、スペシャルセッションを春大会時（6/6）に開催確定
- －第8回委員会を秋大会時に開催予定

2. 委員の関与事例(2010年6月) 2010.6.5

お名前	ご所属	役割	これまでに関与した事例	現在関与している事例 (H19-H21)	手本となる事例(理由)	新しい工夫・参考となる事例(理由)	その他
山中	徳島大	委員長	徳島地域自転車マスタープラン 徳島県自転車専用通行帯区分整備 国総研共同研究	国道192号駅前自転車専用通行帯整備(H20) 徳島県健康に資する自転車専用通行帯整備検討会(H20-21) 国土交通省国総研自転車専用道路網検討会(H19-20) 兵庫県自転車専用通行帯整備に係る検討会(H21) 福山市圏内自転車専用通行帯整備検討会(H20-21) 奈良県自転車専用通行帯整備検討委員会(H21-) 埼玉県飯能市自転車専用レーン+ポストコーン(H19年度WSおよび事業、現在経過観察中) 埼玉県熊谷市パリアフリー重点整備地区と自転車モデル事業(H20予定) 熊谷市道路空間整備推進委員会(H20,21) 川崎市東区自転車総合対策(社会実験含む)(H20-) 川崎市自転車駐車場料金政策検討(H20-) 横浜市青葉区自転車専用通行帯整備検討(H19-20) 横浜市民用自転車専用レーン導入実験(H21-) 東京都大田区自転車総合対策検討(H21-) 参考 ・コミュニティサイクル導入可能性調査(H20-自転車普及協会) ・都市交通としての自転車環境研究(H21-国交省都市地域整備局) ・国土交通省国総研自転車専用道路網検討会(H19-20) ・茨城県自転車専用通行帯整備推進連絡会議(H20-) ・水戸地区国道50号バイパス自転車専用通行帯整備モデル地区(H20-) ・新潟市自転車専用通行帯計画(H21-) ・自転車のまちづくり推進委員会(H22-)	・高松中央通り(論議ある歩道対策のなかでは成功例とされる)	・フランスの統一されたカラーの路面マーク	
久保田	埼玉大	副委員長	埼玉大学キャンパス内自転車専用通行帯禁止規制 埼玉県自転車専用モデル事業(スーパードル地区)				
尾井	東工大	副委員長					
金	茨城大	幹事長					・宮崎市中心部橋通り(広い歩道上に断続的仕切りをして通行帯を確保している)
青木	共立女子大						
阿部	岡山大		自転車利用実態と利用促進策の検討(H11-H12)、 岡山市中心部の放置自転車対策調査と駐輪場整備計画(H11-21)	岡山市内国道53号線における自転車専用通行帯整備の効果計測・評価(H17-H18)、 岡山市内国道53号線の自転車専用通行帯利用促進に向けた交通社会実験(H19-H22)	岡山駅西口～岡山県総合グラウンド間の自転車専用通行帯デザイン・周辺状況の整備が整備されている		
荒井	IPS						
宇佐美	岩手県立大		・H19盛岡市内での社会実験(自転車専用レーン設置、パーキングチケットの駐車枠の駐輪場転換) 自転車専用通行帯整備モデル地区の1つとして挙げられている東京都渋谷区、目黒区、玉川水道沿線の自転車専用通行帯(自転車専用レーン)の計画と設計				
大森	日建シビル						・最近のコミュニティサイクルの利用動向と電動アシスト付自転車利用の特徴についてデータを整理中
大脇	国総研		・2005年万博駐輪場需要推計 ・愛・地球博自転車マップ作成 ・23号名古屋南橋自転車専用設置 ・自転車専用通行帯の設計のポイントほか、道路局・交通局・国総研発行の手引き類	・福島市道形彩形御山線および県道水原福島線(自転車専用通行帯部分のカラー舗装化、荷捌き車庫等の短時間停車への対応、タクシーベイス等の調整対応を図った) ・盛岡城北側の自転車専用レーン(路上駐車の右側に置くレーン)を表示。法的には路上駐車指定場所を含め、自転車専用レーン。 ・富山市北新町の自転車専用レーン(幅4m弱のレーン。路上駐車に阻害されない。) ・川崎市小田栄町の自転車専用レーン(簡易な作り)	・金沢市東山、泰山地区の国道159号(バス専用レーン)内に自転車専用通行帯を重ねてカラー舗装化、長期間の社会実験実施、警察との調整、地元市民の合意形成など整備完了までの対応が参考となる) ・ポータルロード(橋梁部等)で一部自転車専用通行帯が設置されている。歩道と車道の移行が円滑に行えるようなミニ二区画が設けられている。		
小川	立命館		滋賀県・京都府でのモデル地区選定(道路交通環境安全推進連絡協議会の活動として現地調査、整備の詳細はこれから...)	自転車専用通行帯計画策定手法に関する調査報告(執筆中) H19-H21			3肢(T字)交差点の整備(歩道のようなら上り下りだけで歩道部では歩道に上らせて歩行者と混在させる?)
北瀬	国土交通省			おそらく上記には引き続き関与			
河村	パシコン		・横浜市レンタサイクル社会実験(H16) ・世田谷区自転車専用通行帯(ブルーレーン)の設置、歩道の一元通行化(H17) ・川崎市自転車専用通行帯社会実験(自転車専用レーン)の設置、歩道の分離、押し歩き(H21)	・奈良県自転車専用通行帯整備検討(H21、H22) ・宇都宮市自転車専用通行帯整備計画策定検討(H21、H22)			
近藤	滋賀県立大		・彦根市エコエコ自転車まちづくりプラン策定(2002) ・彦根市自転車専用マップ作成(2003)	・自転車専用通行帯の運行経路(2007～) ・「輪の国びわ湖」びわ湖一周サイクリングの立ち上げ運営(2009～) ・滋賀県持続可能な交通システムWG(2008) ・滋賀県地球温暖化対策検討小委員会(2009)			

お名前		ご所属	役割	これまでに関与した事例	現在関与している事例 (H19-H21)	手本となる事例(理由)	新しい工夫・参考となる事例(理由)	その他
高田	東京電機 機大							
塚口	立命館							
土井	香川大				<ul style="list-style-type: none"> 高松市中央通り自転車走行空間整備(H19) 高松市道西宝線自転車走行空間整備社会実験(H20) 自転車を利用した香川の新しい都市づくりを進める協議会(H19-21) 香川の自転車利用を考える懇談会(H18-H19) 			
橋本	豊田都							
羽藤	東大							
瑛岡	秋田大				<ul style="list-style-type: none"> 秋田市自転車利用環境のあり方を考える懇談会(H20-H21) 川崎市東口自転車総合対策(社会実験含む)(H20-) 川崎市自転車駐車場料金政策検討(H20-) 日本自転車普及協会、自転車研究会(H19-20) 日本自転車普及協会、自転車安全性向上研究会(H21-) 豊田市自転車マスタープラン委員会(H20-21) 台東区自転車マスタープラン委員会(H20-21) 平塚市交通マスタープラン検討委員会(H21) 自転車通行空間の設計・整備に関する検討業務(国総研究、H21) 埼玉県における自転車ネットワーク計画作成補助(埼玉県) 	<ul style="list-style-type: none"> H21年秋の川崎駅東口における自転車レーン設置、および自歩道内の走行空間分離社会実験(2週間) 		
兵藤	海洋大							
藤原	パソコン			<ul style="list-style-type: none"> 東京国道管内における自転車空間整備計画作成補助(東京国道) 自転車利用環境整備ガイドブック作成補助(国土交通省・警務庁) 埼玉県自転車環境ガイドライン 				<ul style="list-style-type: none"> 手本や工夫はあくまでも、自転車利用者が幅広いことを考えると「簡単明瞭」でなくてはならない。一見で理解できるルール、標識など混雑のほとんどです。 実は道路のほとんどが地区内の混在であるはず。分離基準と同じくらい混在のルールを確立する必要がある。
松原	オリコン							
三国千	北陸大			<ul style="list-style-type: none"> 自転車・歩行者安全マップ 道の点検簿 国道159号線のバスレーンに自転車走行指導 				
三国成	地球の							
宮崎	高松工 若手県 立大			いわて銀河鉄道サイクルトレイン導入検討調査				
元田	宇都宮 大				<ul style="list-style-type: none"> 川崎市自転車安全利用対策懇談会・盛岡第三高等学校自転車教育 宇都宮国道事務所・国道4号自転車社会実験(2009.3) 栃木県国土整備部・自転車社会実験(2009.3) 福井県駐車場・駐輪場問題検討委員会(H21-H22) 福井市大和田地区自転車通行環境懇談会(H21) 	海外事例(フランス、ベルギー、オランダ他)		
森本	和井工 大			福井駅周辺自転車駐車場整備計画				
和田	東工大		事務局					
鈴木	寺内		渉外					
吉田	大市大		事務局	<ul style="list-style-type: none"> 国道2号、兵庫県尼崎市地区内道路 	<ul style="list-style-type: none"> 兵庫県自転車走行環境整備に係る検討会(H21) 国土交通省国総研自転車道路網検討会(H20) 和歌山県自転車通行環境懇談会(H21)→和歌山モデル地区(社会実験) 自転車利用環境整備等による安全性向上対策研究会(H21) 兵庫県交通科学研究会→兵庫県モデル3地区 大分県自転車通行環境モデル地区(H20) 	<ul style="list-style-type: none"> 大阪府中央大通りの自転車道(余裕のある断面構成でバス停などへの配慮がある) 		
亀野	国立大 分高専			<ul style="list-style-type: none"> 大分市自転車利用基本計画策定 大分市自転車レーン社会実験 				
吉村	日本文 理大				大分県自転車通行環境整備モデル地区における社会実験(H21)			<ul style="list-style-type: none"> 大分市中心部・モデル地区の同じ区間で自転車道の確保を自歩道の分離と車道を転用する2回の比較社会実験を実施。
埴	日本海コ ンサルタ ント			<ul style="list-style-type: none"> 金沢市R159号自転車走行指導帯 	<ul style="list-style-type: none"> 東金沢停車場線自転車レーン(H20-22) 金沢市まちなか自転車利用促進計画(H21-22) 富山市自転車利用環境整備計画(H21-22) 			

3. 研究成果の発表・報告・講演等(H19、H20、H21) 2010.6.5

お名前		ご所属	役割	H19年度	H20年度	H21年度
山中	徳島大	委員長	委員	1) 柿原 健祐, 山中 英生, 滑川 達: プロローブサイクルを用いた高齢者の自転車走行時の挙動に関する分析, 交通工学研究発表会論文報告集, Vol.27, 297-300頁, 2007年. 2) Hideo Yamana and Susumu Namerikawa: MEASURING LEVEL-OF-SERVICE FOR CYCLING OF URBAN STREETS USING "PROBE BICYCLE SYSTEM", Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol.7, pp.1614-1625, 2007. 3) 山中 英生: 自転車に配慮した道づくりの展開, 交通安全教育, No.498, 6?16頁, 2007年9月. 4) 柿原 健祐, 山中 英生, 滑川 達: プロローブサイクルを用いた高齢者の自転車走行時の挙動に関する分析*, 土木計画学研究・講演集, Vol.35, 2007年6月.	1) 山中 英生, 大下 剛, 藩 曉東, 趙 曉翠: プロローブサイクルを用いた日中の自転車空間の走行性比較, 交通工学研究発表会論文報告集, Vol.28, 313?316頁, 2008年. 2) Zhe P., Hideo Yamana and Kakiyama K.: Evaluation of shared use of bicycles and pedestrians in Japan, Urban Transport - Urban Transport and the Environment in the 21st Century-, Vol.14, pp.47-56, 2008. 3) 山中 英生: 自転車交通を使いこなす都市・道路づくりへ, 交通工学, Vol.43, No.2, 1?2頁, 2008年3月. 4) 藩 哲, 山中 英生: 自転車の利用経路と将来利用意向の関係に関する意識分析, 土木計画学研究・講演集, Vol.38, 2008年11月. 5) 柿原 健祐, 山中 英生, 藩 曉東, 大平 晴加, 藩 哲: 中国の自転車道における交通流特性の分析, 土木計画学研究・講演集, Vol.37, 2008年6	1) 山中 英生: 四国における自転車利用促進とその展望, 運輸と経済, Vol.69, No.7, 25?32頁, 2009年7月. 2) 山中 英生: 自転車走行空間整備持続ある取り組みにむけて, 土木技術資料, Vol.51, No.4, 3頁, 2009年4月. 3) 亀谷 友紀, 山中 英生, 柿原 健祐: シンゲンにおける自転車走行特性, 土木計画学研究・講演集, Vol.40, 2009年11月. 4) 亀谷 友紀, 山中 英生, 柿原 健祐, 横田 周典: 坂道と発進時における高齢者の自転車走行特性, 土木計画学研究・講演集, Vol.39, 2009年6月. 5) 横田 周典, 山中 英生, 柿原 健祐, 亀谷 友紀: プロローブサイクルを用いた日中の自転車走行空間の特性比較, 土木計画学研究・講演集, Vol.39, 2009年6月
久保田	埼玉大	副委員	副委員			1) 鈴木美緒, 屋井鉄雄: 「欧州の大都市における自転車非行空間の設計基準とその運用に関する研究」, 土木計画学研究・講演集, Vol.39, 2009. 2) 鈴木美緒, 屋井鉄雄: 「自転車走行空間の設計と交差点での安全性に関する研究」, 土木計画学研究・講演集, Vol.40, 2009. 3) 屋井鉄雄, 鈴木美緒: 「わが国の自転車の政策と走行空間に関する計画制度の方向性」, 土木計画学研究・講演集, Vol.39, 2009. 4) 屋井鉄雄: 自転車走行空間の現状と今後の展望, No.49, pp.17-23, アーバン・ド・トランス, 2009. 5) 屋井鉄雄: 自転車をテーマで終わらせたいという夢, Vol.64, No.1, 設定, 金利昭, 都市計画論文集, 44, 3, 91-96., 2009.10 6) 中島 豪太, 金利昭, 鹿島 茂(2009.11) 心拍間隔指標を用いたストレス計測による自転車走行環境評価に関する基礎的研究, 土木計画学研究・講演集40, CD-ROM, 土木学会, 4P. 7) 金利昭(2009.6) 自転車利用者の満足度を用いた自転車走行環境の評価に関する研究, 土木計画学研究・講演集39, CD-ROM, 土木学会, 4P. 8) 自転車利用空間とコンパティビリティ(共存性), 『自転車交通の計画とデザイン』, 自転車まちづくりフォーラム実行委員会, (株)地域科学研究会, 2009.7, pp.65-73, pp.117-131
屋井	東工大	副委員長	副委員長	1) コンパティビリティに基づく自転車空間と利用のあり方, 金利昭, 交通工学, 43, 2, 8., 2008/03 2) 金利昭(2008.6) Bicycle Compatibility Checklistの作成と自転車道先行事例の評価, 土木計画学研究・講演集37, CD-ROM, 土木学会, 4P. 3) 高齢者対応型交通手段の需要動向と共存性(コンパティビリティ), 共著, 日本交通政策研究会 日交研シリーズA-456, 68P, 2008.11 4) 街路照明に着目した夜間の交通安全対策, 日本交通政策研究会 日交研シリーズA-478, 67P, 2009.3	1) 寺崎健雄, 内海宏臣, 大石学, 宇都宮裕樹, 阿部宏史: 岡山市内国道53号の自転車道利用促進に向けた交通社会実験, 土木計画学研究・講演集, Vol.37, 2008. 2) 阿部宏史, 崎大樹, 岩元浩二, 富田修一: 岡山市内国道53号線における自転車道整備効果の検証, 土木計画学研究・講演集, Vol.37, 2008.	1) 阿部宏史, 崎大樹, 岩元浩二, 富田修一: 岡山市内国道53号線における自転車道整備効果の検証, 土木計画学研究・論文集, Vol.26, No.4, pp.647-654, 2009. 2) 寺崎健雄, 阿部宏史, 元山一也, 田中淳, 松原淳, 岡山市内国道53号線における自転車道利用促進のための施策と効果, 土木計画学研究・講演集, Vol.39, 2009. 3) 田中聡, 兵頭良一, 新谷雅之, 阿部宏史, 北瀬弘康: 岡山市表町商店街における歩行者・自転車の共存をめざした社会実験, 土木計画学研究・講演集, Vol.39, 2009.
金	茨城大	幹事長	幹事長			
青木	共立女子大			発表無し		
阿部	岡山大					
荒井	IBS					
宇佐美	岩手県立大					
大森	日建シビル					1) 大森高樹, 佐々木正義, 関岡和久, 窪田哲則: 道路映像GISシステムを利用した道路空間再構築計画・設計業務への展開, 平成20年度土木学会全国大会・第63回年次学術講演会, 2008 2) 大森高樹, 佐々木正義: 市道392号線(ひえで通り)における自転車道設計上の課題と対応, 土木計画学研究・講演集, Vol.39, 2009 3) 山田武志, 大森高樹, 印南潤二: 自転車道設置に関する社会実験における自転車走行挙動比較分析, 土木計画学研究・講演集, Vol.39, 2009. 4) 澤田基弘, 大森高樹, 上田 毅道: 全体的な自転車走行空間ネットワーク計画の検討報告ー堺市の事例ー, 土木計画学研究・講演集, Vol.39, 2009 5) 大森高樹, 佐々木正義: 自転車道整備モデル地区における道路空間再構築の実施と課題, 第28回日本道路学会, 2009

お名前	ご所属	役割	H19年度		H20年度		H21年度	
大脇	国総研				1) 大脇鉄也、諸田恵士、奥谷正：自転車利用割合に関する統計的考察、土木計画学研究講演集、Vol.37、2008 2) 諸田恵士、大脇鉄也、奥谷正：自転車と歩行者の混在状態下における通行快適性に関する調査、土木計画学研究講演集、Vol.37、2008 3) 大脇鉄也、諸田恵士：自転車マップづくりの取り組み比較、土木計画学研究講演集、Vol.38、2008 4) 諸田恵士、大脇鉄也：統計データに基づく自転車走行空間整備による効果の推定、土木計画学研究講演集、Vol.38、2008	1) 大脇鉄也：コペンハーゲンの自転車空間、土木技術資料、Vol.51、No.4、p.22、2009. 2) 大脇鉄也、諸田恵士、上坂克巳：シミュレーションを活用した歩行者自転車混合交通の分離必要度の評価、土木計画学研究講演集、Vol.39、2009 3) 諸田恵士、大脇鉄也、上坂克巳：自転車道及び自転車レーンの適用範囲に関する一考察、土木計画学研究講演集、Vol.39、2009 4) 大脇鉄也：日本全国の自転車走行台キロの算出手法について、交通数との関連分析、第29回交通工学研究発表会論文集、CD-ROM、pp.81-84、2009.11.		
小川	立命館		1) 小川圭一：自転車交通/歩行者・自転車混合交通のTrafficに関する研究の状況、土木計画学ワークショップシリーズ48 歩行者・自転車交通研究の体系的整理と戦略的展開、pp.6-8、2007.4. 2) 小川圭一、大光弘哲：意識調査に基づく自転車・歩行者混在交通の錯綜現象の危険度評価、平成19年度土木学会関西支部年次学術講演会講演概要集、CD-ROM、第IV部門、IV-76、2007.5. 3) 小川圭一：占有空間を用いた自転車・歩行者混在交通の錯綜現象分析、土木計画学研究講演集、Vol.35、CD-ROM、No.305、2007.6. 4) 小川圭一、高志俊之：車線幅員と中央帯が二輪車の走行挙動に及ぼす影響に関する分析、土木学会第62回年次学術講演会講演概要集、CD-ROM、第IV部門、IV-174、2007.9. 5) Keiichi Ogawa: An Analysis of Traffic Conflict Phenomenon of Bicycles Using Space Occupancy Index, Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol.6, CD-ROM, No.233, 2007.9. 6) Keiichi Ogawa: An Analysis of Traffic Conflict Phenomenon of Bicycles Using Space Occupancy Index, Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol.7, pp.1820-1827, 2007.12.	1) 小川圭一：復元2車線道路における自動二輪車の路肩走行挙動に関する分析、土木計画学研究論文集、Vol.25、No.4、pp.955-962、2008.9. 2) 小川圭一：幹線道路の渋滞時における自動二輪車の走行挙動と路肩幅員・車線数との関連分析、土木計画学研究講演集、Vol.38、CD-ROM、No.P24、2008.11. 3) 小川圭一：自転車・歩行者交通の錯綜評価、土木学会土木計画学研究委員会 ワンデイセミナー No.53 自転車から中速グリーンモードへー利用空間整備の方向とその評価ー、2009.3.				
北瀬	国土交通省							
河村	パシコン				1) 河村成人：国内の先行事例の業務から～自転車レーン等を中心に～、2008年土木計画学大会スペシャルセッション発表			
近藤	滋賀県立大				齋藤毅・近藤隆二郎(2008) 利用状況と乗客からみたペダラクションの改善点に関する研究ー「ペダラクションひこね」を対象としてー、第38回土木計画学研究発表会講演集(CD-ROM)			
高田	東京電機大							
塚口	立命館							
土井	香川大			*				
橋本	豊田大							
羽藤	東大			*				
浜岡	秋田大							
兵藤	海洋大				1)宮原ゆい、兵藤哲朗：画像処理技術を用いた 亀戸自転車道の利用実態の分析、土木計画学研究発表会春大会、2009 2)Promoting Bicycle Use for Sustainable Urban Transport, フィリピン大学 Transport & Environment Seminar 3)Historical Review of Japanese cycling policy and Recent topics, 2009 Incheon Bike Expo 4)Image Processing Analyses on Bicycle Behavior at Newly Installed Bicycle-Lane in Japan, Yui MIYAHARA, Tetsuro HYODO, The First International Conference on The Future of Human Mobility, Thai Society of Transportation & Traffic Studies, (CD-ROM), 22-23 January, 2010.			
藤原	パシコン							
松原	オリコン							
三国千	北陸大							
三国成	地球の							
宮崎	高松工							

お名前		ご所属	役割	H19年度	H20年度	H21年度
元田	岩手県立大			1) 元田良孝: ヨーロッパの自転車道事情、道路、2008年3月、pp. 52-56 2) 元田良孝、オランダの自転車道交通設計便覧、交通工学、2008年3月、pp.65-71、3) 元田良孝、宇佐美誠史: 大学の授業における地域貢献を旨とした教育の実践-サイクリング・サイクリング導入可能性に関する調査を題材に-、土木計画学研究・講演集、Vol.36、2007	1) 元田良孝、宇佐美誠史: 自転車道に関する歴史的考察、土木計画学研究・講演集、Vol.38、2008 2) 元田良孝、宇佐美誠史: わが国の自転車道交通の計画面に関する一考察、土木計画学研究・講演集、Vol.37、2008 3) 元田良孝: 海外の先行事例(フランス、ベルギー、オランダ)、土木計画学研究・講演集、Vol.37、2008 4) 元田良孝、宇佐美誠史: 欧米の自転車道等事例、土木学会土木計画学研究委員会 ワンデーセミナー No.53 自転車から中速グリーンモードへ-利用空間整備の方向とその評価-	1) 元田良孝、宇佐美誠史、千葉大嗣: 気象等が自転車交通需要に与える影響に関する研究、土木計画学研究・講演集、Vol.39、2009 2) 元田良孝、宇佐美誠史: 自転車道に関する歴史的考察(2)、土木計画学研究・講演集、Vol.40、2009 3) 元田良孝: 歩道は歩行者に返そう-自転車走行空間確保の必要性-、CE建設業界、2009年11月号、p.58
森本	宇都宮大				1) 集約型都市構造における都市交通戦略と自転車交通のあり方、交通工学 Vol.43、No.2、pp.37-42、2008 2) 福田温哉、森本章倫: 宇都宮市におけるサイクル&バスライドの実態とその利用要因に関する研究、第36回関東支部技術研究発表会講演集、CD:全2p、2009.3	1) 坂尚哉、森本章倫: 自転車事故の実態把握による自転車レーンの有効性に関する研究、第37回土木学会関東支部技術研究発表会、CD:全2p、2010.3
和田	福井工大			1) 中司健雅、和田章仁: 福井駅周辺における常設および仮設駐輪場の利用実態、土木学会第63回年次学術講演会、pp.537-538、2008 2) 中司健雅、和田章仁: 仮設自転車駐車場の廃止に伴う対策の方向性に関する考察、土木計画学研究・講演集、Vol.38、CD-ROM、2008	1) 中司健雅、和田章仁: 中高生における自転車利用の意識実態、土木学会第64回年次学術講演会、pp.239-240、2009	1) 吉村朋矩、和田章仁: 中高生における自転車利用の意識実態、土木学会第64回年次学術講演会、pp.239-240、2009
鈴木寺内	東工大 国土館	事務局 渉外				
吉田	大市大	事務局		1) 谷口真梨、日野泰雄、吉田長裕、内田敬: 都心部における駐輪施設整備検討のための自転車回遊行動特性の分析、土木学会関西支部年次学術講演集、IV-69、2007.	1) 小竹雄介、日野泰雄、吉田長裕、内田敬: 高齢者の行動と意識から見た交通安全講習の効果と課題に関する基礎的研究、土木学会関西支部年次学術講演会、2pp、2008. 2) 吉田長裕、Zペンハーパー: 中速帯の整備とその評価、土木学会土木計画学研究委員会 ワンデーセミナー No.53 自転車から中速グリーンモードへ-利用空間整備の方向とその評価-、2009.	1) 日野泰雄、佐野智哉、吉田長裕、内田敬: 自転車道通行帯整備条件に対応した利用実態と利用意向に関する調査研究、第29回交通工学研究発表会論文集、pp.173-176、2009. 2) 亀井省吾、吉田長裕、日野泰雄、春藤千之: 一般化線形モデルを用いた幹線道路における自転車事故のリスク分析、第29回交通工学研究発表会論文集、pp.13-16、2009. 3) 中村真也、吉田長裕、日野泰雄: 車道共有型自転車道走行施設の評価システムに関する研究、第40回土木計画学研究・講演集、4pp、2009. 4) 亀井省吾、吉田長裕、日野泰雄: 事故の深刻度を考慮した幹線道路における自転車事故のリスク分析、第40回土木計画学研究・講演集、4pp、
亀野	国立大 分高専			1) 吉村充功、亀野辰三: 既存道路空間を活かした自転車レーン設置による自転車・自動車の共存可能性、土木計画学研究・講演集、Vol.37、pp.142-145、2008.6、2008 1) 新留卓、清水大士、吉村充功、亀野辰三: 中心市街地幹線道路における自転車走行特性の一考察、土木学会西部支部研究発表会講演集、pp.675-676、2009.3	1) 吉村充功、亀野辰三: 既存道路空間を活かした自転車レーン設置による自転車・自動車の共存可能性、土木計画学研究・講演集、Vol.37、pp.142-145、2008.6、2008 1) 新留卓、清水大士、吉村充功、亀野辰三: 中心市街地幹線道路における自転車走行特性の一考察、土木学会西部支部研究発表会講演集、pp.675-676、2009.3	1) 新留卓、吉村充功、亀野辰三: 中心市街地幹線道路における自転車走行速度に着目した走行特性の一考察、土木計画学研究・講演集、Vol.39-371、2009.
吉村	日本文理大			1) 吉村充功、亀野辰三: 大分市自転車レーン社会実験にみる道路空間の再編可能性、交通工学、Vol.43、No.2、pp.49-54、2008.	1) 吉村充功、亀野辰三: 既存道路空間を活かした自転車レーン設置による自転車・自動車の共存可能性、土木計画学研究・講演集、Vol.37-142、2008. 2) 新留卓、清水大士、吉村充功、亀野辰三: 中心市街地幹線道路における自転車走行特性の一考察、平成20年度土木学会西部支部研究発表会講演集、pp.675-676、2009.3	1) 新留卓、吉村充功、亀野辰三: 中心市街地幹線道路における自転車走行速度に着目した走行特性の一考察、土木計画学研究・講演集、Vol.39-371、2009.
埜	日本海コ ンサル タント			1) 片岸将広、岡田茂彦、高山純一、石川俊之、埜正浩: パスレーンを活用した「自転車走行指導帯」の設置による交通安全対策の効果と課題、土木計画学研究・論文集、Vol.25、no.3、pp.597-608、2008.	1) 埜正浩、高山純一、吉田英治、片岸将広: 金沢市中心市街地における自転車走行実態に対する一考察、土木計画学研究・講演集、Vol.40、CD-ROM、No.293、2009.	1) 埜正浩、高山純一、吉田英治、片岸将広: 金沢市中心市街地における自転車走行実態に対する一考察、土木計画学研究・講演集、Vol.40、CD-ROM、No.293、2009.

自転車空間研究小委員会名簿

No	氏名	役職	所属
1	山中 英生	代表	徳島大学大学院 ソシオテクノサイエンス部 教授
2	久保田 尚	副代表	埼玉大学大学院 理工学研究科 教授
3	屋井 鉄雄	副代表	東京工業大学大学院 総合理工学研究科 人間環境システム専攻 教授
4	金 利昭	幹事長	茨城大学 工学部 都市システム工学科 教授
5	青木 英明	委員	共立女子大学 建築・デザイン学科 准教授
6	阿部 宏史	委員	岡山大学大学院 環境学研究科 資源循環学専攻 教授
7	荒井 祥郎	委員	(財)計量計画研究所 IBS PI 研究室
8	稲垣 具志	委員	公益財団法人 豊田都市交通研究所(UPDATE)
9	井上 恵介	委員	株式会社 建設技術研究所 中部支社 総合技術部
10	井上 仁	委員	株式会社 積水樹脂デザインセンター 環境デザイン部
11	宇佐美誠史	委員	岩手県立大学 総合政策学部 助手
12	大森 高樹	委員	(株)日建設計シビル 都市基盤計画部 計画主管
13	大脇 鉄也	委員	国土交通省 国土技術政策総合研究所
14	小川 圭一	委員	立命館大学 都市システム工学科 准教授
15	梶田 佳孝	委員	九州大学大学院工学研究科環境都市部門 助教
16	上條 俊介	委員	東京大学生産技術研究所 准教授
17	亀野 辰三	委員	国立大分高専都市システム工学科 教授 地域連携交流センター 副センター長
18	北澗 弘康	委員	国土交通省 中国地方整備局 岡山国道事務所 計画課長
19	河村 成人	委員	パシフィックコンサルタンツ(株) 社会政策本部 総合計画部 交通政策グループ
20	小早川 悟	委員	日本大学理工学部社会交通工学科 専任講師
21	近藤 隆二郎	委員	滋賀県立大学 環境科学部 環境政策・計画学科 准教授
22	嶋田 喜昭	委員	大同大学工学部都市環境デザイン学科 准教授(NEW)
23	鈴木 美緒	委員	(財)運輸政策研究機構 運輸政策研究所 研究員
24	高田 和幸	委員	東京電機大学 理工学部 建築環境工学科 准教授
25	高橋 清	委員	北見工業大学工学部土木開発工学科 准教授
26	塚口 博司	委員	立命館大学 理工学部 都市システム工学科 教授
27	寺内 義典	委員	国土館大学 理工学部 理工学科 准教授
28	外井 哲志	委員	九州大学大学院工学研究科環境都市部門 教授
29	土井 健司	委員	香川大学 工学部 安全システム建設工学科 教授
30	萩原 亨	委員	北海道大学大学院工学研究科 准教授
31	橋本 成仁	委員	岡山大学大学院 環境学研究科 准教授
32	羽藤 英二	委員	東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻 准教授
33	浜岡 秀勝	委員	秋田大学 工学資源学部 土木環境工学科 准教授
34	兵藤 哲朗	委員	東京海洋大学 海洋工学部 教授
35	藤原 憲男	委員	パシフィックコンサルタンツ(株) 社会政策本部 道路計画部 道路整備グループ
36	牧 浩太郎	委員	(株)三菱総合研究所 社会システム研究本部 政策科学研究グループ
37	松原 淳	委員	(株)オリエンタルコンサルタンツ 東京事業本部
38	松本 修一	委員	慶應義塾大学 先端研究センター 講師
39	三国 千秋	委員	北陸大学 教育能力開発センター 教授
40	三国 成子	委員	地球の友・金沢
41	宮崎 耕輔	委員	香川高等専門学校 建設環境工学科
42	元田 良孝	委員	岩手県立大学 総合政策学部 教授
43	森本 章倫	委員	宇都宮大学大学院 工学研究科 地球環境デザイン学専攻 准教授
44	吉村 充功	委員	日本文理大学 工学部 建築学科 准教授/人間力育成センター長
45	和田 章仁	委員	福井工業大学 建設工学科 土木環境工学専攻 教授
46	埴 正浩	委員	株式会社 日本海コンサルタント 計画本部 取締役 本部長
47	吉田 長裕	事務局	大阪市立大学大学院 工学研究科 都市系専攻 講師

以上 47 名

第6回自転車空間研究小委員会議事録（案）

日時：2009年11月22日（土）14:00-16:00

場所：金沢大学 205 教室 [本館講義室棟 2 階]

人数：委員（31/46）、オブザーバ 8 名、計 39 名

■議事

（1）代表挨拶

- ・研究小委員会の設立経緯および趣旨の説明

（2）委員の活動状況について（金先生）

- ・委員の活動状況（研究キーワード・関与事例）の更新について
- ・小委員会主催の自転車利用環境に関するアンケート調査について

（3）国における自転車政策の動向

- ・「自転車をめぐる最近の動向について」竹林秀基様（国土交通省）

- ・「自転車走行空間の設計のポイント」本田肇様（国総研）

/逆走する自転車と歩行者の錯綜について議論があったか？同様に、路肩を走っているオートバイと自転車、路肩を追い出されたオートバイと自動車との錯綜の議論はあったか？（元田先生）→議論はあったが注意喚起などをしっかりしていかななくてはならない。自転車専用通行帯でのバイクとの共存の議論がある。第一通行帯を狭めて自転車専用通行帯、第二通行帯の幅員を広げてバイクと自動車との共存を図るような検討例もある。

（4）話題提供

- ・「金沢の取り組み事例」三国成子様

/自歩道での民地寄り逆走自転車の危険を緩和するために、交差点部の民地側に歩道段差をつけるということは考えたか？（浜岡先生）→お年寄りには小さな段差でも躓くので段差の考えはなかった。警察には危険があることを訴えてきたがなにも対策されていない。

/自転車の危ない場面のほとんどは、対面通行に起因するのではないか？（上條先生）→金沢では当初車道一方通行とすることにバス会社が難色を示したが、やってみると一方通行のほうがルールが明確で良いということになり、金沢ではその方向性で進んでいる。双方向通行は交差点部で問題が起こっているの、今後は交差点部での走行ルールの一貫性を高めていきたい。

- ・「名古屋・国道19号（桜通り）における社会実験」松原淳様

- ・「川崎市社会実験」河村成人様

- ・「市川市の取り組み」元田良孝先生

/市川市でイエローカードを配っている事例について、自助努力なのか法的担保があるのか？（片岸様）→法的担保あり。

- ・「盛岡市での取り組み」宇佐美誠史先生

- ・「海外事例の紹介」山中英生先生

(5) 討議

- /海外事例については、インフラの整備と法体系の関係、利用状況との関係についても是非整理して頂きたい(塚口先生)。
- /夜間の自転車対面通行による事故として正面衝突事故があり、今後さらに問題になるだろう。韓国的高速自転車道についてどんな状況か？(浜岡先生)
- /自歩道走行から車道走行を促すためには、車道を走り安くし歩道を走りやすくすることも大事(元田先生)。
- /歩道を走りやすくして事故が起きると管理瑕疵が問われる。国交省が自転車道を作っているが利用率が低いなど問題がありなんとか改善する方法はないか検討していきたい(舟渡先生)。
- /自転車には2種類(ママチャリとそれ以外)があり、通行方法などもわけて考えた方がよいのではないか？(上條先生)
- /自転車レーンの課題で駐車があるが日本特有の問題？(三国成子様)→金沢で指導帯を設置した区間は、24時間駐車禁止だが停車禁止はかけられなかった(片岸様)。取り締まりの課題もある(元田先生)。
- /現行法を前提にすると双方向通行となっており、運用が非常に複雑であることを認識している。道交法の議論ももちろんあり、事実とともに課題を指摘してほしい(大脇様)。

自転車等の中速グリーンモードに配慮した道路空間構成技術に関する研究

第二年度研究概要

研究代表者: 徳島大学大学院教授 山中英生

● 自転車等の中速グリーンモードの日本の特徴

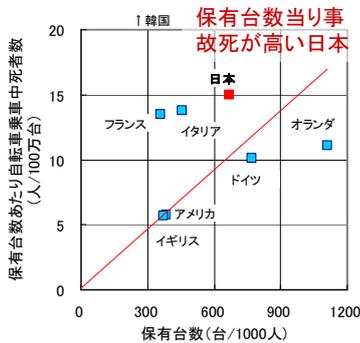
- 世界的に高い利用率(トリップシェア)先進国の中でシェアを失わなかった国の一つ
- 短いトリップ長、遅い速度→中速性の不足 利用層(高齢・女性)、走行空間(自歩道)
- 高い事故率→安心だが安全でない乗り物 高齢者・高校生

● 中速グリーンモード

自転車、電動四輪、自転車タクシー等をはじめとする人力や電動による環境負荷の少ない中速(時速30km未満)の交通手段

● 研究目的

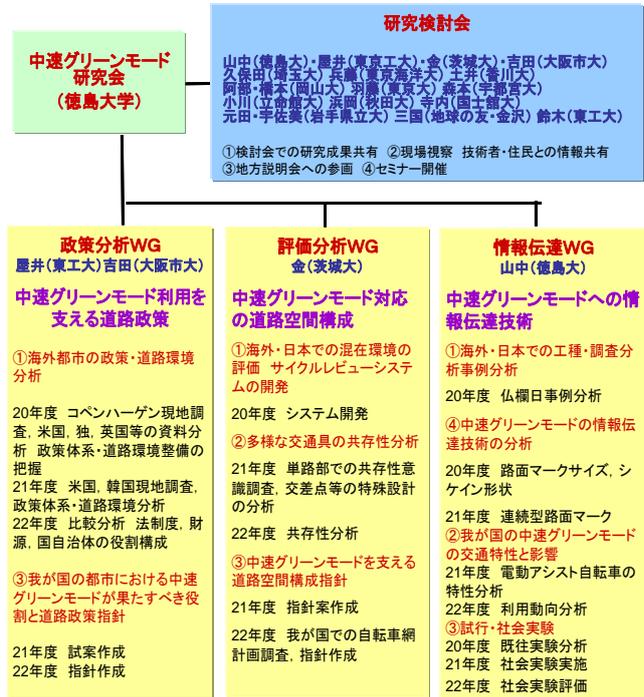
自転車を<中速の交通モード>として見直し、道路政策・道路構造基準等の空間システムの基準作りむけて実用的知見を整理する。→将来 日本版 自転車道デザインマニュアルへ



成果の普及・活用へ 市民向セミナー(岡山)の開催

- 自転車現地視察
- ディスカッション(市民、NPO)
- 四国・中国地区
- ⇒モデル地区担当者との討議

● 研究体制と研究プロセス

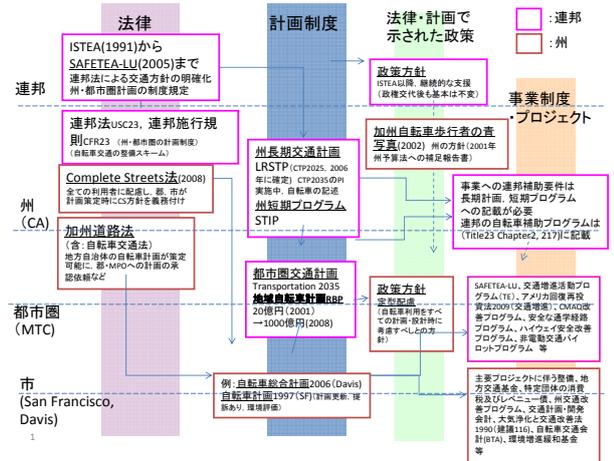


1

政策分析WG 中速モードを支える政策分析

● 法律・計画制度・政策の分析(米国)

米国自転車政策の体系現地調査の結果(連邦・カリフォルニア州)



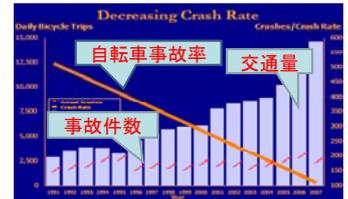
- 継続性:** ISTEA以降の18年間、変わらない計画制度(SAFETEA-LU, USC, CFR) → 政策継続性(Policy Continuity)
- ルーチン化:** 計画・設計時に必ず自転車を配慮する(MTCの長期計画) 高速道路、駅前広場、いかなる交通計画においても自転車の利用を明示的に考慮する政策
- 法定理念:** 道路は自動車のもではなく、すべての利用者が安全に利用できるようにする(州のComplete Street法) 基本理念の法定化、地方計画への反映を義務づけ
- 計画手続き:** 長期計画、短期プログラム、事業の各段階でパブリックインボルブメント実施、沿道コミュニティや自転車利用者の意見を踏まえた社会的合意を形成しやすい
- 役割分担:** 国、州、市の役割がそれなりに明快
- 財源制度:** 多数のスキームから自治体が工夫して財源を獲得している状況



● 自転車推進政策・戦略分析(米国)

自転車マスタープランによる目標設定・管理(2010→2030)

- 全市目標(2年毎達成状況評価)
- 自転車分担率を10%へ増加
- 自転車対車両事故の20%を削減
- 事故を増やさず交通量を増やす



● 自転車推進政策・戦略分析(韓国)

国と都市の連携による自転車推進

- 国家目標(2015): 自転車保有率25%、自転車分担率10%
- 都市毎の推進目標の設定達成状況に応じたインセンティブの付与
- 6Eアプローチによる施策の総合的実施
- Engineering インフラ整備** 道路ダイエツト自転車道整備
- Enforcement 法・条例改正** 推進法改正、条例、道交法改正
- Education 教育** 教習所・インストラクタ養成・自治体自転車通動
- Encouragement 利用促進** 共同自転車 モデル都市、マニュアル発行
- Enlinking 連携・接続** 観光・生活・業務 ネットワーク化、公共交通との連携
- Evaluation 評価** 自転車関連統計、市民参加による継続的な評価

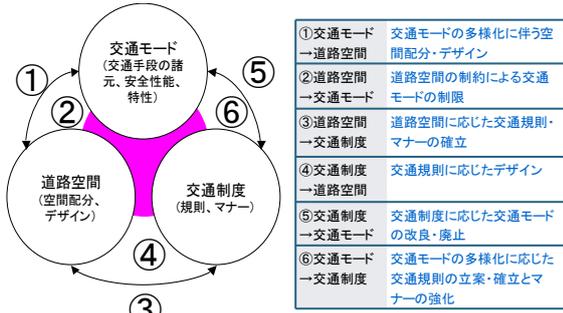


→我が国の自転車等の中速GMの政策指針案の提案

2

評価分析WG 共存性を考慮した道路空間構成意識分析

● **共存性の概念** 様々な交通モードが安全快適に道路空間を利用すること **どの交通モードを分離するか？一緒にした交通モードをどのように共存させるか？**

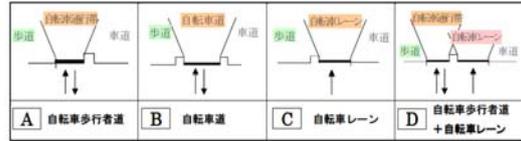


●意識調査の目的と方法

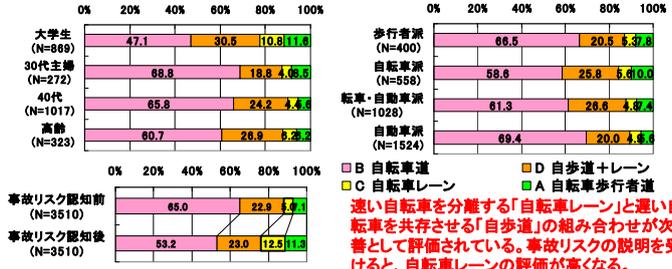
1. 自転車対応型道路のタイプ(自転車道、自転車レーン、自歩道)の受容性と規定要因(個人属性、交通特性、安全意識)を探る。
2. 様々な交通モード(手段・利用者: 歩行者、高齢者、自転車、子供自転車、高齢自転車、自動車等)の中で、何を分離し、何を共存するか？
3. 自転車通行帯に、自転車以外の新しい中速モード(電動四輪車、小型電動原付)は共存可能か？

	全国Webアンケート調査	大学生アンケート調査
調査方法	民間アンケート専門サイト「アイリサーチ」を用いたWebアンケート方式	各大学への郵送配布
調査対象	全国18歳以上	大学生 【東京大学、筑波大学、北海道大学、秋田大学、東京工業大学、東京大学、立命館大学、次亜大学、次亜市立大学、岡山大学、神戸大学、徳島大学】
調査期間	2009年 12/25～12/29	2009年 11月下旬～1月上旬
有効回答数	3510リプル	回収:1100/配布:1980(回収率:56%)

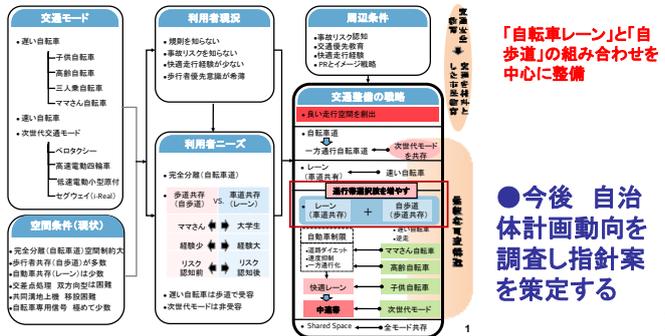
●4種類の自転車空間の受容性を比較



交通ルール、歩行者、遅い自転車、速い自転車、自動車の通行方法を詳しく説明している。



●道路空間構成の整備方針(方向性)



情報伝達WG 中速モードに適した情報伝達技術

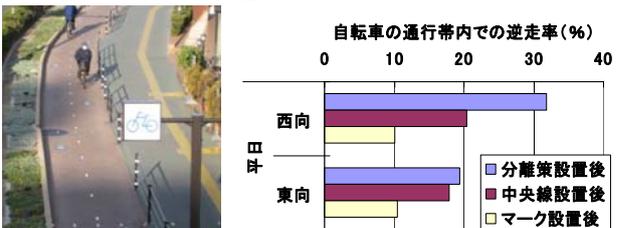
●カラー連続型路面マークの提案

進行方向と自転車の通行空間であることを同時に示すシンボル



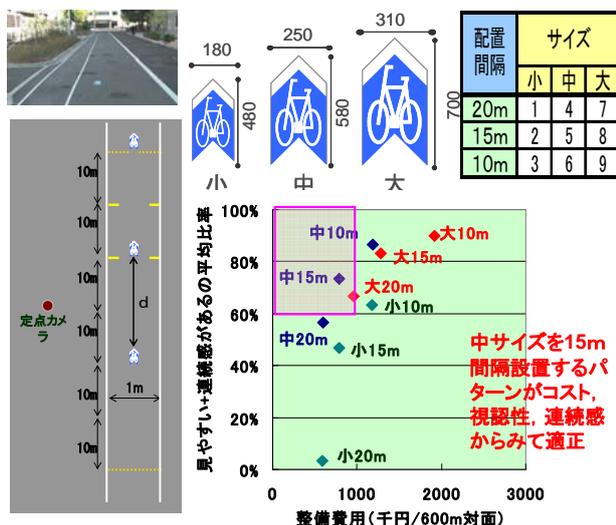
●カラー連続型路面マークの効果

国道192号自転車通行帯での試行



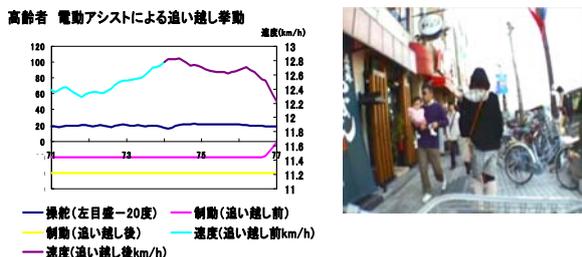
分界線だけの場合に比べて、自転車通行帯の遵守率が47%→61%に改善、自転車通行帯内で逆走する率が20～30%が10%に改善

●マーク視認実験と適正サイズ配置間隔



●電動自転車の走行特性分析

高齢者・若年者各12名でプロバイシクル(電動と普通)を使用して一般道路を走行。高齢者は歩行者の多い区間で速度や制動時間が上昇するが意識していない。



●今後の検討事項

社会実験における情報伝達性の意識調査、評価を行う。

